徳島新聞　２０２３年（令和５年）６月４日　日曜日（２１）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

第63回徳島県高校総合体育大会（県教委、県高体連主催、徳島新聞社など後援）の第２日は３日、各地で24競技が行われ、７競技で団体優勝校が決まった。柔道男子は阿波が10大会連続23度目、女子は生光学園が３大会連続４度目の優勝。ソフトテニス男子はつるぎが３大会連続７度目、女子は脇町が16大会連続21度目の栄冠を手にした。レスリング男子はつるぎが初制覇。重量挙げ男子は徳島科技が２大会ぶり７度目、女子は鳴門渦潮が初の頂点に立った。ライフル射撃ビームライフル女子は、城北が４年ぶり13度目のV。フェンシング男子は徳島文理が２年連続２度目、女子は城ノ内が20大会連続27度目の王座に就いた。

第63回 県高校総体 第2日

生光学園 4度目栄冠

女子団体決勝・生光学園対徳島北　先鋒戦を豪快な払い腰で一本勝ちした生光学園の木村（上）＝鳴門ソイジョイ武道館（立花善晴撮影）

男子は阿波10連覇

柔道

（鳴門ソイジョイ武道館）

【男子】団体1回戦　阿南高専4－1鳴門、徳島科技4－1徳島北▽準決勝　阿波5－0阿南高専、鳴門渦潮2－1徳島科技▽3位決定戦　徳島科技4－1阿南高専▽決勝　阿波3－0鳴門渦潮

【女子】団体1回戦　生光学園3－0徳島商、徳島北2－1板野▽3位決定戦　板野2－1徳島商▽決勝　生光学園3－0徳島北

○中川一本背負い渋谷
○結城引き分け藤本
○桑田引き分け佐野
○保川合わせ技片岡
○佐々木合わせ技宮本
○木村払い腰中野
○杉本縦四方固め磯野
○平方横四方固め矢野

勝ち切る姿勢 チームに浸透

生光学園

今春の全国選抜大会3位の生光学園女子が徳島北との決勝をオール一本勝ちした。選手3人は夏の全国舞台を意識し、最後まで勝負にこだわる姿勢を見せた。牛方主将は「全員がしっかり勝ち切れた」とチーム一丸の勝利を強調した。

圧巻だったのは先鋒（せんぽう）の木村。開始10秒で釣り手を取り、鮮やかな払い腰を決めた。無差別で争う4月の全日本女子選手権を制した五輪選手と組んで刺激を受けたポイントゲッターは「速い組み手を心掛け、最初から全力でいった」とチームを勢いづけた。

部員約20人との総当たり戦でメンバー入りを勝ち取った中堅・杉本は「出られなかった仲間の分も」と奮闘。足技で崩してから得意の内股で倒し、縦四方固めを決めた。大将・牛方は何度も寝技を仕掛け、試合終了間際には背負い投げを試みた相手が倒れたところを一気に押さえ込んだ。

全国でさらに上位を目指すには、全員が勝つ気持ちを強く持つことが大事だと実感したという。1年生15人の加入で27人に倍増したチームは、技が決まるまで続ける「一本取り」の練習などを通し、意識を高めてきた。

木村は「もっと相手を圧倒する強い気持ちで戦えるよう鍛えたい」と言い、杉本は「部内競争は激しいけど、常にメンバー入りできるよう努力する」。さらにレベルアップを図り、頂点を目指す。（南志郎）

悪い流れを断つ

○…10大会連続Vを決めた阿波男子は副将の保川が鳴門渦潮との決勝で流れを呼び込んだ。

先鋒（せんぽう）の中川が一本背負いで先勝したものの、続く結城、桑田が引き分け。「自分が悪い流れを断ち切る」と畳に上がった2年生の副将は、体重50キロ差の相手に強気を貫いた。内股すかしと寝技の合わせ技で貴重な2勝目を挙げ、重苦しい空気を払拭した。大将の佐々木も1本勝ち